



国際歴史論戦研究所

International Research Institute of Controversial Histories

【緊急シンポジウム】

ラムザイヤー論文をめぐる国際歴史論争

プログラム

《第一部・報告》

- 山本優美子 ラムザイヤー論文の紹介
西岡 カ ラムザイヤー論文批判への反論
高橋 洋一 エコノミストから見たラムザイヤー論文
有馬 哲夫 ラムザイヤー論文批判をめぐるメディアの問題
藤岡 信勝 ラムザイヤー論文と歴史教科書

《ビデオ・メッセージ》

イ・ウヨン（韓国） マーク・ラムザイヤー（米国）

《第二部・討論》

秦 郁彦 高橋 史朗

高橋 洋一 有馬 哲夫

藤岡 信勝(司会)

令和3年(2021年)4月24日

星陵会館大ホール

緊急シンポジウム「ラムザイヤー論文をめぐる国際歴史論争」開催の趣旨

昨年 12 月、ハーバード大学ロースクール所属の法経済学者マーク・ラムザイヤー教授は、「太平洋戦争における性サービスの契約」と題する学術論文をネットに公開した。その趣旨は、すでに日本では確立した学説となっている「慰安婦＝公娼」説をベースに、戦地に於ける慰安婦と業者との関係を「ゲーム理論」の枠組みによって分析したものであった。

この論文の内容が 1 月 31 日の産経新聞に詳しく紹介されると、韓国では「慰安婦＝性奴隷」説に立つ学者や運動団体などから激しい反発がおこり、次いでアメリカでもコリアン系の学者や学生らが先導して、ラムザイヤー批判の大合唱がおこった。

そこまではよしとして、問題はそれらの批判者がラムザイヤー論文の撤回を求めて署名活動を展開し、全世界で 3500 人以上の学者の署名が集まったなどとしていることである。たとえ署名が 1 万人分集まろうと、真理は微動だにしない。

しかし、こうした行動は、学問の自由を圧殺する全体主義的な風潮の表れであり、自由な社会において看過できない深刻な問題である。学問的研究に対する批判は同じ学問的研究や論説でなされるべきであり、多数を頼んで圧力を掛け、論文を撤回させ、研究者の口を封じるなどは、決してやってはいけないことである。

このシンポジウムは、そうした憂慮の上に立って、慰安婦問題の当事国たる我が国でも、学問の自由と論争のルールは守られるべきであるとの立場から、ラムザイヤー論文を読み、それぞれが自己の見解を確立する一助にしようとする試みである。

時あたかも、日本では令和 3 年度から使用される中学校の歴史教科書に「従軍慰安婦」の記述が復活し反響を呼んでいる。そうした意味でも、慰安婦問題は我が国にとって避けて通れない課題である。

今後、いずれは「慰安婦＝性奴隷」説の学者とも学問的なベースで冷静な議論の場を持ちたいと考えるが、このシンポジウムは、何が今回の国際的論争の争点であり、問題点であるかを究明し、議論の正しい在り方をこの日本において示すことを狙いとする。多くの方々に関心を寄せていただくよう希望する。

令和 3 (2021) 年 3 月
国際歴史論戦研究所